

中国でのフライト・インフォメーション・システムの受注好調！

- 国内・海外の大型空港に着実な実績 -

富士通フロンテック株式会社（本社：稲城市、代表取締役社長：宮澤達士）は、今年8月5日に開港した中国最大の空港 広州新白雲空港へ納めたフライトインフォメーションディスプレイシステム(以下FIDS)など、海外の新設空港向けFIDSの受注が好調です。

当社は中国では、すでに北京空港、上海浦東空港にFIDSを納めており、今回の広州新白雲空港に入ったことで、中国の三大ハブ空港全てに、当社システムが採用されることになります。さらに、すでに稼働中の西安空港、杭州空港、瀋陽空港、青島空港に加え、これから四川省の成都空港、重慶空港、さらに山東省の済南新空港にも採用が決まっております。

今回当社が受注した広州新白雲空港FIDSの特長は、当社がFIDSの元請会社として、システム設計、機器調達、ソフト開発、据付工事、総合試験、教育訓練などの関連業務全てを纏め上げたところにあります。元請会社としての実績は、1998年の上海浦東空港向けFIDSの立ち上げに始まり、西安空港と、今回の広州新空港へと続いております。また今年末に開港が予定されている済南新空港には、FSC(Field Sequential Color)LCD という新しい方式を採用したシステムを提供します。これは単一のLCDユニットに多色表示を可能にした最新技術です。この方式により、航空会社のロゴマークなどが、鮮明に表示できるようになります。

中国での稼働実績が認められ、1999年には、韓国の仁川新空港のFIDSの受注にも成功し、これまでの海外での受注累計金額は、30億円に達しております。

中国では、経済が年率8~10%と大きく成長していることに伴い、空港旅客運輸需要も著しく伸びております。これは、航空会社の統合、新規路線の開設、機材の大型化、新規導入と新空港建設、既存空港の拡張、最新設備の導入など、特に2008年度に開催される北京オリンピック、2010年度の上海万博を控え、インフラの整備が急ピッチで行なわれていることなどが、背景となっております。この結果、中国では、今後5年間に30か所以上の空港の建設・整備が計画されており、とりわけ北京首都空港第三ターミナル、上海浦東空港二期~四期工事、広州白雲空港の二期~三期工事、更には北京新空港の建設などの大規模な整備事業が目白押しです。
また、韓国でも、仁川空港の第二期~五期工事が計画されており、大きなビジネスチャンスが控えております。

当社は、最新技術と実績に裏づけされた経験、ノウハウを有効に活用し、ビジネスチャンスを的確に捉え、今後も国内・海外の大型FIDS商談の受注に全力を挙げて参ります。

【お問合せ先】 富士通フロンテック株式会社
総務部企画広報室

TEL 042-377-2544

FAX 042-378-0927

e-mail ir@frontech.fujitsu.com